

28 農林水産分野における地球環境対策推進手法開発事業

【49（41）百万円】

対策のポイント

- ・ 農林水産分野における温室効果ガス排出量の算定方法の改善を図ります。
- ・ 温室効果ガス排出削減量等表示の活用方法を確立し取組促進を図ります。
- ・ 農林水産分野における生物多様性保全効果の発揮、民間による支援活動の拡大を推進します。

<背景／課題>

- ・ 気候変動枠組条約事務局に報告している温室効果ガス排出量の算定については、現在、欧州基準のデフォルト値を使用しており、我が国の実態に適した算定方法へ改善を図り、農林漁業者の削減努力が適正に反映されるようにする必要があります。
- ・ 温室効果ガス排出削減の取り組みの促進を図るために、農林漁業者が、排出削減の取組や排出削減量算定に係る手間・コストに見合うメリットを感じられるような排出削減等の効果的な表示とその活用方法を確立する必要があります。
- ・ 生物多様性の保全に向けた取組の拡大が求められる中、農林漁業活動により保全された生物多様性を経済的に評価し、生物多様性保全に資する活動を民間が支援するための仕組みを構築することが必要です。

政策目標

- 条約事務局に報告する日本の温室効果ガス排出量の算定係数の改善（平成25年度、2項目）
- 農林水産業に伴う活動により保全された生物多様性の経済的評価に基づく、農家等を支援する新たな仕組みを構築

<主な内容>

1. 農林水産業由来温室効果ガス排出量精緻化検討・調査

畜舎、農地等において、メタンや一酸化二窒素排出量の実測調査や知見の収集・整理を行うことにより、より我が国の実態に即した農林水産業由来温室効果ガス排出量の算定方法を検討します。

補助率：定額
事業実施主体：民間団体等

2. 地球温暖化対策実践活用促進事業 [新規]

環境ラベル表示に係る実証等を通じ、農林漁業者の努力により達成した温室効果ガス削減量等の効果的な表示・活用方法を検討し、マニュアルとして取りまとめます。

補助率：定額
事業実施主体：民間団体等

3. 生物多様性保全推進調査事業

農林水産分野における生物多様性の経済的評価や、生物多様性保全活動への企業等による支援を促す仕組みについて実地検証を行い、実用性・普及性の高い支援の仕組みを検討し、ガイドラインとして取りまとめます。

補助率：定額
事業実施主体：民間団体等

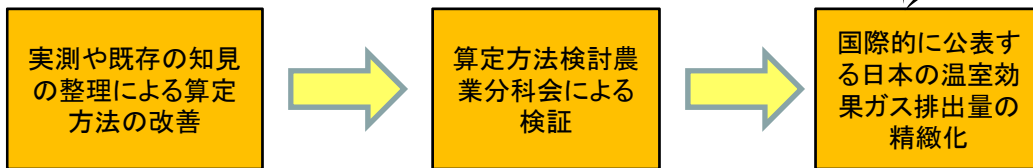
[お問い合わせ先：大臣官房環境政策課（03-6744-2017（直））]

農林水産分野における地球環境対策推進手法開発事業【49(41)百万円】

- 気候変動枠組条約に基づく温室効果ガス排出量の条約事務局への報告について、実態に即した算定方法に改善していく必要。
 - 温室効果ガス排出削減に資する取組を農林漁業者に広めるために、農林漁業者による努力を消費者と共有することが必要。
 - 農林水産業の生物多様性保全機能の認識が進み、民間による支援活動の拡大が必要。
- 温室効果ガス排出量の算定方法の適正化
 農林漁業者が達成した排出削減量の表示・活用方法の検討
 農林水産業に伴う活動により保全された生物多様性の経済的評価に基づき、農家等を民間企業等が支援する仕組みの構築

1. 農林水産業由来温室効果ガス排出量精緻化検討・調査

水田、農地等において温室効果ガス排出量の実測調査等を行うことにより実態に即した排出係数等を調査・検討

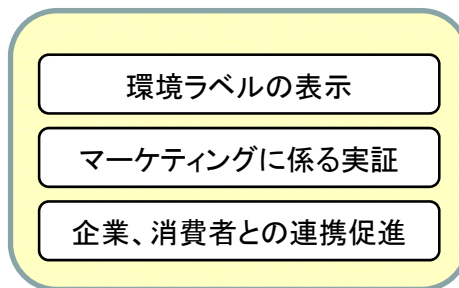


2. 地球温暖化対策実践活用促進事業

環境ラベル表示に係る実証等を通じ、農林漁業者が達成した排出削減量等を効果的に表示・活用する方法を検討し、マニュアルを作成



農家の努力により達成した排出削減量の算定



排出削減の取組促進

排出削減量等に係る表示・活用マニュアルの策定

3. 生物多様性保全推進調査

農林水産分野における生物多様性活動を民間が支援する仕組み(イメージ)

生物多様性の経済的評価や、保全活動への企業等による支援を促す仕組みについて実地検証を行い、実用性・普及性の高い支援の仕組みを検討し、ガイドラインを作成

